



愛隣幼稚園・・・・・・・・・・・・・・・・

園だより

・・・・・・・・・・・・・・・・ 10.9月号

酷暑の夏に思う事

暑い暑い夏休みでした。まだしばらくこの暑さは続くという天気予報にうんざりしてしまいます。

暑いばかりで雨が降りません。町を歩いていても本来なら深い緑の葉を茂らせているだろう木々たちが、悲鳴をあげているように感じます。木の葉は焼け、枯れて茶色に変色し始めています。そこまでにはならない木も、元気がなくしおれてやっと命をつないでいるかのようです。夏が好きな私には悲しい光景です。ですが、今年の夏休みには出掛けた先々で、この何倍・何十倍も酷い光景に出会ってしまいました。

8月半ば、家族旅行で大阪・京都方面へ出掛けた時のこと。大阪から天橋立へ向かう高速の車中から、私は異様な光景を目にしました。山々のいたるところが赤茶色に紅葉しているのです。“今年では日本中が猛暑だったはずなのに・・・ここだけは、ぐっと冷え込む日が続いたとか・・・いやいやそんなはずはない。じゃ、これはなに？こんなにたくさん木が枯れているってこと？！何が起きているの？この疑問の答えは、その翌日京都のホテルで読んだ京都新聞の夕刊にありました。『ナラ枯れ「紅葉」猛暑で深刻化』という見出し。ナラ枯れの原因はカシノナガキクイムシ。樹木に穴を開け侵入して病原菌を持ち込み、水分を吸い上げるのを阻害するのだそうです。そこにこの猛暑と雨不足が拍車をかけ、被害が拡大してしまったということ。同じような光景は8月の終わり、職員旅行で行った山形の山々にも広がっていました。どうやら日本中で夏の盛りに「紅葉」が見られるという深刻なことになってしまっているようです。ああ、そういえば見た。あれがこのことか。思い出された方もたくさんいらっしゃることでしょ。いくら異常とは言ってもやがて暑い夏も終わり秋がやってきます。ナラの木というのはドングリのなる落葉樹です。コナラとかミズナラがその仲間です。山の実りはいかなものかと案じてしまいます。熊もサルも、他の動物たちも食べるものはあるのでしょうか。里に下りてくるのも頷けます。これだけの木々が枯れてしまったら、私たちの生活にも深刻な影響が出てくるはず。他人事ではないのです。“どうしてこんなに被害が拡大してしまったのか”調べてみると、山の木々の古木化も大きく影響しているようです。若い木はこの病気にかかりにくく、枯れている木の大半は古木が多いのです。少し前まで私たちはまきや炭を作るために頻りに山の木を伐り、そのあとには新しい木を植えてきました。人々の生活と山の木々の再生は、絶妙のバランスで保たれてきていました。自然の恵みをいただきながら、それが枯渇しないようにと手を加え守り育ててきたのです。C.W.ニコル（作家・ナチュラリスト）という人が「森を守るということは何も手を加えず放っておくことではない。古い木を伐採し、若木を植え、下草を刈る。森が再生し生き続けていくために人が森に入っていくことは必要なこと。」と話していました。人は自然からたくさん恩恵を受けまた同時に、この自然を守るという役目も担っています。私たちは自然の一部、共に生きる存在です。子どもたちがこの先も、地球の住人として平和に幸せに住まわせてもらうためには、かなり本気で今私たちに出来ることを考えなければ、ということを感じさせられます。

見えない所で、知らないうちに人と自然との共生のバランスは崩れています。じわじわとその影響が始まって、今年の異常気象もそのひとつ?! これはおかしい? 何だか変! そう感じられる本能を失わないようにと思います。「私たちも自然の一部」と自覚していきたいと思えます。